

ものづくりの将来を担う青年の技能の集い

一技能五輪全国大会より一

千葉職業訓練支援センター 秦 啓祐

1. はじめに

「ものづくり基盤技術の振興施策」(ものづくり自書)が厚生労働省、文部科学省、経済産業省の連携で作成されている¹⁾。この中で、以下のことが指摘されている。(1)高年齢技能者・生産年齢人口が減少し、技能の伝承・継承が十分に行われていないこと。(2)技能検定や、熟練技能者が若年技能者への実技指導を行う「ものづくりマイスター制度」を活用して、若年への技能伝承を支援することが重要であることが述べられている。

技能の伝承・継承については、2007年問題、すなわち団塊世代の引退が要因の1つであると指摘しており²⁾、技能の伝承・継承は喫緊の課題となっている。一方、独立行政法人 労働政策研究・研修機構が「ものづくり現場の中核を担う技能者の育成の現状と課題に関する調査」³⁾を行っており、ものづくり産業はわが国の強みの1つであり、今後わが国が持続的に発展していくためには「ものづくり」産業において知識・技術を持った中核的技能者を育成していくことが必要不可欠であると指摘している。中核的技能者の確保・育成に向けた取り組みが喫緊の課題であると述べている。

ものづくりにおいては、人材育成及び技能継承が 重要な継続テーマであり、中核的技能者となり得る 若者の育成は重要な課題となっている。若者の育成 は喫緊の課題となっている。若者を育成するための ツールとして、技能五輪全国大会が毎年開催されて いる。平成25年度は、第51回目の技能五輪全国大会が11月23日(土)~24日(日)の2日間、千葉市の幕張メッセをメインに開催された。

ところで、著者は、技能五輪全国大会を主催している中央職業能力開発協会に平成20年から平成21年までの2年間在籍し、技能競技大会関係業務に携わる技能振興部に所属していた。現在の所属は、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 千葉職業能力開発促進センターである。第51回の技能五輪全国大会で自動車板金職種が当施設を会場として開催された。

そこで、本報告では、ものづくり教育・訓練に携わっている青年に技能競技大会に対して興味を抱いてもらい、そして参加していただき、これからの日本のものづくりを先導してくれることを期待して、第51回技能五輪全国大会の様子を中心に、技能競技大会について報告する。

2. 技能五輪全国大会の目的

技能五輪全国大会(以後,競技大会と称す)は, 青年技能者の技能レベルの日本一を競う技能競技大 会であり、その目的は、次代を担う青年技能者に努 力目標を与えるとともに、大会開催地域の若年者に 優れた技能を身近に触れる機会を提供するなど、技 能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重機運の 醸成を図ることを目的としている³⁾。

3. 技能五輪全国大会開催の経緯

わが国での技能競技大会の開催は、技能五輪国際 大会へ参加したことから始まっている。第11回の技 能五輪国際大会(1962年、スペインのヒホンにて開 催) に初めて参加し、優秀な成績を収めた。このこ とが国内で話題となり、国内で技能五輪大会が宣伝 され、実施されるようになった。第12回の技能五輪 国際大会への選手選考のために地方予選及び全国大 会が初めて実施された。第1回大会の競技大会は昭 和38年5月に東京都で開催された。第2回大会(昭 和39年)から第10回大会(昭和47年)までは(社)日本 産業訓練協会が主催、第11回大会(昭和48年)から 第21回大会(昭和57年)までは他日本産業訓練協会 と中央職業能力開発協会の共催、その後の第21回大 会(昭和58年)からは中央職業能力開発協会が単独 で主催することになった。第28回大会までは、東京 都または千葉県内を主会場として中央職業能力開発 協会が主催し、開催されていた。平成3年の第29回 大会以降は日本全国の会場で開催されるようにな り、原則的には中央職業能力開発協会と開催都道府 県との共催(地方開催方式)による開催となってい る4)。

4. 競技大会の状況

技能五輪全国大会は、平成25年に開催された大会で51回目を迎えた。半世紀にわたり開催されている技能競技大会である。第51回の大会で競技された職種は、以下の40職種である。

(1) 金属系職種

構造物鉄工,電気溶接,自動車板金,曲げ板金, 車体塗装

(2) 電子技術系職種

メカトロニクス, 電子機器組立て, 電工, 工場電気設備

(3) 機械系職種

機械組立て, 抜き型, 精密機器組立て, 機械製図, 旋盤, フライス盤, 木型, 自動車工

(4) 情報技術系職種

ITネットワークシステム管理,情報ネットワーク施工.ウェブデザイン

(5) 建設・建築系職種

タイル張り,配管,石工,左官,家具,建具,建 築大工,造園,冷凍空調技術,とび

(6) サービス・ファッション系職種

貴金属装身具,フラワー装飾,美容,理容,洋裁,和裁,洋菓子製造,西洋料理,日本料理,レストランサービス

写真1は,第51回技能五輪全国大会の競技風景である。写真1.1は,千葉職業能力開発促進センターを会場として開催された自動車板金職種の競技風景である。写真1.2は,幕張メッセを会場として開催された建築大工職種の競技風景である。自動車板金職種では,大手の企業を中心に選出された21名の競技選手が参加して開催された。一方,建築大工職種では,工務店,個人,学校等を中心に選出された86名の競技選手が参加して開催された。



写真1.1 職種:自動車板金, 会場:千葉職業能力開発促進センター



写真1.2 職種:建築大工,会場:幕張メッセ

写真 1 競技風景



写真2.1 建築大工職種の競技課題



写真2.2 フライス盤職種の競技課題

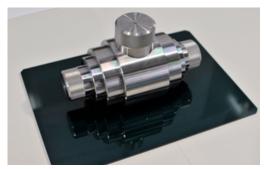


写真2.3 旋盤職種の競技課題



写真2.4 電工職種の競技課題

写真2 競技課題

写真2は,技能五輪全国大会で実施された職種の競技課題の一例である⁵⁾。写真2.1は,標準時間11時間の建築大工職種の競技課題である。写真2.2は,標準時間5時間のフライス盤職種の競技課題である。写真2.3は,標準時間5時間の旋盤職種の競技課題である。写真2.4は,標準時間5時間30分の電工職種の競技課題である。

図1は、開催年度における競技参加人数の推移⁶⁾ について示したものである。図より、1990年前後あたりをピークに競技参加者が減少している。この減少傾向の背景には以下のことが推測される。

- (1) 1980年代頃から話題になった労働環境・作業内容に対する「きつい」、「きたない」、「危険」の最初の文字をもじって3K職場という流行語の影響が若者の技能離れに拍車を掛けたものと考えられる。
- (2) バブル経済によるブルーカラー指向の減少が考えられる。

その後,90年代の半ば頃から参加人数の増加が現れ始めている。この背景として,以下のことが考えられる。

(3) 1990年のバブル崩壊による深刻な不況が発生し、ホワイトカラー職種の大量リストラが展開された。そのことが影響しているのか定かではないが、その後、ブルーカラー職種に対する見方の変化が表れ、手に職を持ちたいという風潮が高まり、ものづくりに関心が高まるようになった。そのような中で、2007年に第39回の技能五輪国際大会が静岡県で開催されることとなり、これを契機に競技大会への参加数が増加するようになった。ものづくりの技能尊重機運が高まってきたのではないかと思われる。

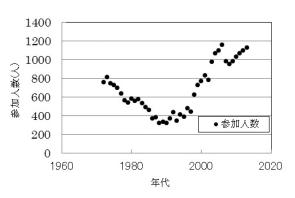


図1 開催年代別の競技参加人数

表1は、過去10年間の競技職種の参加人数の推移を示したものである⁶⁾。表より、例年コンスタントに多数の競技者が参加している職種が数多く見受けられる。これらの職種へ競技者が多く参加する要因として、以下のことが考えられる。

(1)職種に関係する団体の競技大会への積極的な取り組みが展開されている,(2)若年者の人材育成に対して積極的な取り組みを行っている事業所が多い,(3)競技選手の所属先からの強力な支援体制が確立さ

表 1 競技職種の参加人数の推移

上人間供口料	10	10	4.4	45	10	477	40	10	-n	-1
大会開催回数	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
機械組立て	23	24	27	40	40	34	35	43	44	40
抜き型	20	23	24	24	27	29	24	24	28	32
精密機器組立て	8	10	12	12	12	14	17	18	18	16
機械製図	16	15	21	26	24	23	24	30	32	33
旋盤	52	60	59	62	69	72	82	81	81	78
フライス盤	26	34	36	33	36	37	39	44	42	43
構造物鉄工	16	18	14	16	16	20	24	26	24	22
電気溶接	13	18	17	12	16	25	28	35	34	22
木型	10	8	7	6	7	6	7	8	9	9
タイル張り	7	8	5	6	5	7	7	5		6
自動車板金	22	23	23	23	22	23	25	22	24	21
曲げ板金	11	10	7	7	6	5	5	5	6	6
配管	51	47	37	25	24	35	23	32	33	38
電子機器組立て	42	38	37	32	37	35	44	50	53	63
電工	35	44	43	36	40	44	47	43	47	44
工場電気設備	7	5	6	7	12	11	11	10	8	7
石工	6	8	8	11	10	5		6	7	9
広告美術	15	12	12	9						
左官	18	20	16	10	10	8	7	11	13	7
家具	22	16	22	18	18	24	23	29	21	25
建具	14	8	14	5	6	9	4	8	8	6
建築大工	130	121	117	84	76	80	84	79	78	86
貴金属装身具	7	7	13	7	6	8	12	6	7	7
洋裁	35	39	41	31	23	20	21	20	19	15
自動車工	8	8	8	10	10	9	7	7	6	7
西洋料理	22	19	22	18	23	25	22	25	26	34
日本料理	77	73	64	63	64	52	56	54	55	60
美容	49	51	50	48	45	34	39	34	42	45
フラワー装飾	41	33	30	19	30	36	29	42	36	49
メカトロニクス	56	64	42	50	54	56	60	58	62	66
造園	38	40	50	22	26	25	36	32	38	44
洋菓子製造	26	25	19	9	16	21	28	24	29	33
理容	34	31	34	19	20	13	22	21	18	17
和裁	45	44	54	32	40	32	31	26	18	19
レストランサービス	14	18	18	11	15	11	16	15	13	13
車体塗装	6	10	10	7	7	7	6	6	8	6
冷凍空調技術	6	11	11	10	11	19	18	19	19	17
ITネットワークシステム管理	5	12	31	31	12	14	10	11	12	10
情報ネットワーク施工	20	18	25	24	20	19	19	19	22	24
ウェブデザイン		-	25	29	18	20	19	20	20	22
		\vdash	<u> </u>	<u></u>						
ウェブデザイン とび			25	29	18	20 16	19 17	20 18	20 17	22 15

れている,(4)職種に関連した業種への若年者の就業 人口が多い,等が参加人数の多い要因と考えられ る。

他方,参加人数が1桁の職種が散見される。これらの職種で競技の参加人数が減少している原因として以下のことが考えられる。

(5)若者の就業が少ない(参加年齢制限がある), (6)職種をとりまとめる団体がない,(7)職種に関係した事業所が少ない,(8)所属先からの支援(時間的,経済的)が難しい,(9)限られた地域での職種である,等が競技への参加人数の少ない要因と考えられる。

5. ものづくりのその他の競技大会

技能五輪全国大会の競技大会のほかに,以下の競技大会が開催されている。

5.1 技能グランプリ (2年に1度開催)

この技能競技大会は、以下の内容で実施されている大会である⁶⁾。

- (1) 熟練技能者が技能の日本一を競う大会である。
- (2) 参加選手は、当該職種について、特級、1級及び単一等級の技能検定に合格した技能士が参加できる(例えば1級技能士ともなれば、職業訓練指導員免許を持っている場合でも1年以上、実務経験のみの場合は7年以上の実務を経験した熟練技能者)。
- (3) 年齢に関係なく, 熟練技能を競う全国規模の技能競技大会である。
- (4) 厚生労働省,中央職業能力開発協会,そして一般社団法人 全国技能士会連合会の共催により開催される。
- (5) 大会の優勝者には, 内閣総理大臣賞, 厚生労働 大臣賞などが贈られる。

技能グランプリで開催されている競技職種は,以下の職種である。

染色補正,婦人服製作,紳士服製作,和裁,寝具,石工,建築大工,かわらぶき,畳製作,建築配管,プラスチック系床仕上げ,カーペット系床仕上

建具, ガラス施工, 貴金属装身具, 印章木口彫刻, 表具. 園芸装飾. ペイント仕上げ広告美術. 粘着 シート仕上げ広告美術, 日本料理, フラワー装飾, レストランサービス

写真3は、技能グランプリで実施された職種の競 技課題の例である5)。 写真3.1は、標準時間10時間 のかわらぶき職種の競技課題である。 写真3.2は、 標準時間12時間の建築大工職種の競技課題である。

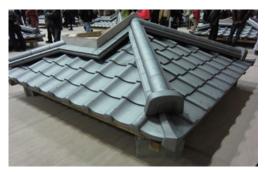


写真3.1 かわらぶき職種の競技課題



写真3.2 建築大工職種の競技課題 写真3 競技課題

5.2 若年者ものづくり競技大会(毎年開催)

この技能競技大会は、以下の内容で実施されてい る大会である⁶⁾。

- (1) 若年者のものづくり技能に対する意識を高め、 若年者を一人前の技能労働者に育成していくに は、技能習得の目標を付与するとともに、技能を 競う場が必要である。
- (2) 職業能力開発施設,工業高等学校等において, 原則として、技能を習得中の企業等に就業してい ない20歳以下の若年者を対象に開催される。

げ、壁装、旋盤、フライス盤、機械組立て、家具、 (3) これら若年者に目標を付与し、技能を向上させ ることにより若年者の就業促進を図り、併せて若 年技能者の裾野の拡大を図る。

> 若年者ものづくり競技大会で開催される競技職種 は、以下の職種である。

メカトロニクス、機械製図 (CAD)、旋盤、フラ イス盤、電子回路組立て、電気工事、木材加工、 建築大工. 自動車整備. ITネットワークシステ ム管理,ウェブデザイン,オフィスソフトウェ アー・ソリューション、グラフィックデザイン、 ロボットソフト組込み

写真4は、若年者ものづくり競技大会で実施され た職種の競技課題の例である⁵⁾。 写真4.1は、標準 時間4時間の電子機器組立て職種の競技課題であ る。

写真4.2は、標準時間4時間の木材加工職種の競 技課題である。



写真4.1 電子機器組立て職種の競技課題



写真4.2 木材加工職種の競技課題 写真4 競技課題

5.3 技能五輪国際大会(2年に1度開催) この技能競技大会は、以下の内容で実施されてい

る大会である⁶⁾。

- (1) 技能五輪国際大会は、正式には、国際技能競技 大会(World Skills Competition)と呼ばれる。
- (2) 1950 (昭和25) 年にスペインとポルトガルの 2ヵ国で開催。1971年まで毎年開催。それ以降は おおよそ2年に1度の開催である。
- (3) 参加国の職業訓練分野の振興及び技能水準の向上を目指す。青年技能労働者の国際交流と親善を目的としている。
- (4) 日本国籍を有し、大会開催年に22歳以下で過去に大会に参加したことのない者であること。

5.4 都道府県での技能大会(毎年開催)

各都道府県の職業能力開発協会の主催により,技 能競技大会,あるいは技能五輪全国大会の予選会が 開催されている。

6. おわりに

以上,ものづくりの将来を担う若者が参加する技能競技大会について,第51回の技能五輪全国大会を中心に報告した。これからのものづくりを担う青年,特に職業能力開発施設で学ぶ訓練生に技能競技大会に興味を抱いてもらい,そして技能競技大会へ参加していただきたい。日本のものづくり産業を先導してくれることを期待したい。また,そのような環境づくりを構築,そして支援していくことがわれわれ指導員の責務ではないだろうかと思う。

謝辞

本報告をまとめるに当たり、中央職業能力開発協会 技能振興部より競技写真の提供をしていただく等、多大なるご協力をいただきました。感謝申し上げます。

本報告の一部は、ポリテックビジョン2013 訓練研究・総合制作発表会(2014年2月28日、千葉職業能力開発短期大学校)において発表した内容をもとに作成したものである。

<参考文献>

- 1) 厚生労働省「ものづくり白書 平成25年版」 http://www.mhlw.go.jp/ (参照: 2014.1.31)
- 2) 日本労働研究雑誌:特集「2000年問題」を検する, No.550. P31~P42 .May. 2006
- 3)独立行政法人 労働政策研究・研修機構:ものづくり現場の中核を担う技能者の育成の現状と課題に関する調査,2012年3月28日
- 4)「技能五輪全国大会」「フリー百科事典Wikipedia」 http://ja.wikipedia.org/wiki/(参照: 2014.1.31)
- 5) 中央職業能力開発協会主催の技能五輪全国大会パンフレット 資料
- 6) 中央職業能力開発協会Homepage「ものづくり基盤強化」 http://javada.jp/monozukuri/(参照:2014.1.31)

- 45 - 実践報告